



よきかな若人

～飯綱山こそわれらが希望～

飯綱中学校相談メール iichu-soudan@edu.town.iizuna.nagano.jp

「自分ができることを ひとつひとつ」

学校再開の6月1日(月)の朝、校長先生が放送で全校生徒にお話をしてくださいました。

(前略)

今から60年後、2080年。皆さんは、おじいさん、おばあさんになっているかもしれません。そんなある日のこと。中学生になったあなたの孫が学校から帰ってきて、こう言います。

「ねえ。おじいちゃん、おばあちゃん。今日学校でね。歴史の勉強したんだよ。そしたら、2020年にコロナウイルスっていうのが大流行したんだって。多くの人が感染して、亡くなったんだって。マスクがなくなって、人が街から消えたんだって。それにね。学校が3ヶ月も休みになったっていうけれど、本当にそんなことがあったの？」

60年後のあなたは答えるでしょう。

「そうだな。今でもよく覚えているよ。ちょうど飯綱中学校に通っていた頃だ。」

未来の中学生はこう続けます。

「本当にそんなことがあったんだ。だけどさあ、3ヶ月も学校休めたのは、ラッキーだったりして。」

みなさんは、この未来の中学生の「ラッキー」という言葉に違和感を覚えませんか。しかし、この子に悪気はありません。私たちだって、最初の頃は、「学校が休めてラッキー」と思う心はどこかにあったかもしれません。それなのに、今になると「ラッキー」という響きにどこか違和感を覚えるのはなぜなのでしょう。

それは、私たちがこの3ヶ月、メディアを通して、今回の戦いがどれほどまでに人類を苦しめたのか、目の当たりにしてきたからではないでしょうか。生活が苦しくなり、嘆く人々の声を連日のように耳にしました。ついこの前まで元気だった人がもういない、その現実を突きつけられました。命をかけて医療に当たる人々の奮闘ぶりを目にしました。お年寄りのためにマスクを作った中学生がいたことを知りました。ロックダウンされた町中で、外出した人を棒で殴っている光景も目にしました。一方、日常生活で感じることもありました。友だちや先生と普通に交わっていた会話や挨拶がいかにかけがえのないものであったのか、友だちや先生と学び合っていたことが、どれだけ心強かったのか、外の空気がこんなにもさわやかで、道ばたに咲いているタンポポがこんなにもきれいだったのか。確かに、新型コロナウイルスは私たちから多くのものを奪いました。しかし、それと引き換えに私たちには、気づいたこと、感じたことも確かにあったはず。歴史的な出来事を経験しながら、今、みなさんは何を感じていますか。何を考えていますか。今、皆さんが感じ、考えたことは心にしっかり刻んでおいてほしいのです。なぜなら、「経験は人を作る」といいます。今回の経験を通じて感じ、考えたこと、それは、あなたの価値観となって、これからのあなたを作る可能性があるのです。例えば、戦争の悲惨さを経験した人が、世界の平和を訴え続けるように。人々の優しさを受けた人が、人に優しくなれるように。当たり前前の尊さを経験した人が何気ない日常を大切にするように。

(中略)

2080年のおじいさん、おばあさんは、「学校が休みでラッキー」という大好きな孫の質問にどう答えるのでしょうか。

「確かに初めは気楽だったよ。でもな。一人でいると、不安になってきたんだよ。このままで友だちができるかな。勉強しなくて大丈夫なのかな。一人取り残されてしまうのかなってね。けどな、学校が始まって、それまで話したことの無い人が話しかけてくれて、先生も「待っていたぞ」なんて声をかけてくれて、ちょっと気分が軽くなったんだ。学校では新しい生活様式が導入され、何回も手を洗ったり、前の人と距離をとって並んだり、今にして思えば不自由なこともあった。でも、見えない化け物から、自分や大切な人を守るためには、それは当たり前だったんだよ。そんな中で思ったんだ。僕は今、人類の生活が変わるほどの緊急事態に直面している。だから、不安になるのは当たり前だし、だからといって慌てたってろくなことないし、これから先、どんな状況になっても、自分が今できそうなことをひとつずつやれば、それでいいんじゃないかなって。それからというもの、自分ができることをひとつひとつ。そう思って、やってきたら、何とかこの年まで来られたよ。それに、こうして君にも出会えたってわけさ。」

学校再開に先立って

5月29日(金)、3学年では、学校再開に先立ち、学年集会を開きました。集会の中で、久保秀史先生は、「来週からまた集団生活が始まります。3カ月間、一人で生活していた時は、『僕は(私は)、こうする』が通用しましたが、これからはまた、多少は我慢し合い、お互いの想いを大切にしながら生活していこうとする意識が大切です。」と話されました。また、ツイッターによる個人への誹謗中傷、名誉棄損がある事実に触れ、「ある一人の人間を、ひとつの角度からしか見ず、誹謗中傷のメッセージを送ってしまう人がいる。でも、別の角度から見ようとするれば、その人の、今まで知らなかった良い面も見えてくるのだよ。」と、周りに流されず、自分の頭で考え、正しく判断し、表現することの大切さについて、話されました。



「3つの密」を避けるため、ソーシャルディスタンスの確保といった飯綱中学校版「新しい生活様式」を策定し、6月1日(月)の学校再開を迎えました。「新しい生活様式」では、登校時、校舎に入る前に各学年ごと定められた手洗い場で、手洗いを行います。1年生の給食は、4校時に職員があらかじめ給食コンテナ室から職員室前オープンスペースへ運んでおき、給食コンテナ室の密を避けています。給食コンテナ室前や、各学年のオープンスペースの手洗い場の前には、立ち位置を示す印があり、順番を待っています。このように、「新しい生活様式」では、多少不自由な面もありますが、生徒会では、生活委員会が昇降口前で下校時の手洗いを呼びかける活動を始めました。職員だけでなく、生徒も新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、自主的な活動につながっている姿が見られ、頼もしさを感じます。

今後、かなりの長期間、新型コロナウイルスとともに学校生活を送らなければなりません。そのため、学校では、感染のリスクを可能な限り低減しながら教育活動を継続していきたいと考えています。

《生徒の生活ノートから》

今日から6時間の授業が始まりました。臨時休校中の家での生活が、学校で影響してしまって、授業中に気が緩くなり、ボーっとしてしまうこともありました。明日から気を引き締めて直していきたいです。今日特に印象に残ったのは、6時間目の避難訓練です。校長先生から、「一番大事なのは、まずは自分の命を守ること」というお話があり、もしものことがあっても、「お・は・し・も」をしっかりと守って行動したいと思いました。(3年女子)



下校時の手洗いを呼びかける生活委員



登校時の手洗い



職員室前の1年生の給食



立ち位置を示すコンテナ室前



オープンスペースの手洗い場

【お知らせ】

長い臨時休校が明け、不安や心身の疲れを感じながら学校生活を送っている生徒もいることが推察されます。学校では、来週から「相談カード」を用いて、生徒が相談できる時間を設けてまいります。保護者の皆様におかれましても、お子様のことで相談したいことがございましたら、遠慮なく学校にお伝えください。飯綱中学校相談メール(iichu-soudan@edu.town.iizuna.nagano.jp)もご利用ください。

(文責 勝山)